



# 樹念記

発行者  
医療法人 大分記念病院  
大分市羽屋9組の5  
TEL 097 - 543 - 5005



ホームページアドレス  
<http://www.oct-net.ne.jp/~omh>

2009年1月15日 Vol. 85



新年明けましておめでとうございます。  
新しい年の初めに皆様方のご多幸とご発展をお祈りいたします。

昨年は大きな変動の年でした。アメリカに初の黒人大統領が選出され、国内外に大きな転換が見られるのではないかと期待されます。

また、同じくアメリカにサブプライムローン問題が発生して、国際的な経済危機が危惧されていますが、人類の英知はこの難関を乗り切つて新しい秩序を作り上げて行くに違いありません。

わが国の医療界にも新しい流れが始まっています。昨年大分で「リレー・フォー・ライフ大分」というイベントが行われました。大分では初めての試みでしたが、3,000人もの方々が参集され、大きな成功を収めることが出来ました。その意味するものが何かを考えてみました。

1985年アメリカ・ウシントン州シアトル郊外で、アメリカ対がん協会のゴルディー・クラット医師が始めたがんの患者さんを支援するイベント「リレー・フォー・ライフ」。がんの患者さんとその支援者らがチームを組んでグラウンドを24時間歩き続けるというイベントです。また寄付を募って、集まった資金はがん撲滅のために拠出されます。

がんを患っている人は、24時間休むことなくがんに向かい合っているということを支援者らが実感することによって連帯感が生まれるというイベントですが、わが国では「昨昨年に初めてつくば市で開催されました。三年目の昨年十月に、大分市で行なわれた「リレー・フォー・ライフ大分」に3,000人を越える人々が集い、3,000万円を超す資金が集まるという大成功を納めたのは驚くべきことでした。

近年のわが国の医療は、まさに医療崩壊ともいえるような状態に瀕しています。それでも決して豊かではなかったがんの患者さん達への想いを、今こそ形にして作り上げて行

かねばならぬと信じているのではないでしょうか。

医療の歴史を振り返ってみると、かつて国民病であった結核は抗生剤の発見で、いまや治癒可能な病気になっています。しかし、がんについては、全てのがんについて治癒を期待するには今少し時間がかかりそうです。

血友病という病気があります。血液が固まりにくい病気で、この病気もまだ完治には至っていませんが、患者さん始めご家族の方々の努力で、素晴らしい進歩があり、患者さん方は日常生活での活動はもとより、積極的にリーダーシップを発揮して社会活動に参画しておられ、エンパワード・ペイシャント振りを充分に発揮しておられます。素晴らしいことです。

がんの患者さんについても同じようなことが起こっています。これまでがんという名前に驚かされて、患者さんはおそれ、診療する側は気後れたように十分な対応が出来ていませんでした。

しかし患者さん達は夫々の立場で連携を取り合い、組織を作つて情報を交換し、独自の力で病気を克服して来られました。今回の「リレー・フォー・ライフ大分」の成功は、そのような方々の大きな連携の場が作られたため、一気に気運が高まったものと考えて良いのではないのでしょうか。一人の医師の呼び掛けに始まったイベントが、全米4,000箇所に波及して活動がなされているという現実。このことは、今後私共医療者の進むべき道を示しているのではないかと思っています。幸い、21世紀になつて分子標的型薬剤という、がん細胞そのものを標的とした強力な治療薬が開発されました。その最有力な薬は「magic cancer bullet」「魔法の弾丸」と呼ばれ、「リレー・フォー・ライフ」の基金で開発されました。

がんの治る時代の到来も夢ではなくなりました。今こそ患者さんと医療者との協力して病気と対峙する時ではないかと思っています。私達は血友病との対峙の上で得た「連携」というキーワードをもとにして患者さんの思いを共有し、病を共有出来るシステム作りを努力せねばならないと思っています。病を克服する「エンパワード・ペイシャント」、そして「病気の完治」、それが私達の目指すものです。

## 医療法人 大分記念病院

### 基本理念

- 1) 私達は患者の皆様を中心とし、病院各部門が一致協力しチーム医療を行うことで、患者の皆様の満足と幸福に貢献することを目標とします。
- 2) 私達は地域社会の一員として、地域の健康増進と幸福の追求に貢献するために努力します。
- 3) 私達は病院の発展と安定とによって、地域社会の医療連携の一翼を担うことを目指します。

### 基本方針

- 1) 高水準の専門医療技術をもって、患者の皆様の治療に当たります。
- 2) 患者の皆様の立場に立って、信頼と安全の確保に全力を挙げます。
- 3) 患者の皆様との心のふれあいを大切に、心のこもった医療サービスに努めます。

# 糖尿病を放置するとどうなる??

## 糖尿病性慢性合併症の怖さと

### その予防の重要性

糖尿病に由来する三つの最も有名な慢性合併症に①網膜症、②腎症、③

神経障害があります。いずれも高血糖とインスリン抵抗性による細い血管

の動脈硬化と代謝異常が原因であり、糖尿病発症の初期から合併症が始まり、

20数年の経過で不可逆的な状況にまで進行することが知られています。そ

の時に急いで急に血糖のコントロールに努めても合併症は一旦歩きして元

に戻りません。糖尿病を早期に見つけて早くから血糖値を正常化し、

HbA1cを6.0%未満に維持している患者さんには糖尿病性網膜症がみら

れないそうですし、それに加えてさらに血圧を正常レベルに保っている患者さんでは神経障害も腎症も起こりに

くいことが知られています。

しかし、日本人の糖尿病患者さんの95%以上を占める2型糖尿病ではほとん

ど症状がないので、そのような恐ろしい病態が体の中で進行していることに気がつかずに手遅れになってい

るのが現状です。

それゆえ当院では糖尿病と診断された患者さんのみでなく、その予備軍(境界型糖尿病)の方にも、糖尿病について

の理解と治療の動機づけをする目的で糖尿病教室への参加をお勧めして

います。しかし、仕事の関係などで参加できない患者さんもかなりいま

す、定期的な診察も受けず放置して後口眼底出血で失明したり、壊疽

で下肢を切断したり、腎不全で透析を受けるはめになるケースも珍しくあり

ません。糖尿病は患者さんにとって一生付き合っていく病気なので、患者さん自

身に糖尿病とその合併症についての十分な理解と治療についての動機づけ

がなければ、慢性合併症を予防することは極めて困難と思われる。

例えば、ある患者さんは12年前に健康診断の結果で糖尿病の治療を勧め

られましたが放置。その2年後にやっ

と当院の外来を受診した時には、空腹時血糖 $232\text{mg/dL}$ 、HbA1c $9.5\%$ で既に網



膜症を発症していました。経口血糖降下剤を含む3ヶ月間の治療の結果、

HbA1cが6.8%まで改善しましたが、それ以来通院治療を中断し、10年後

再び当院の外来を受診した時には、左下肢を膝下20cmで切断し義足を付けて

いました。糖尿病性末梢神経障害のため足の痛みの感覚が鈍くなり、左

足の指に出来た水泡を缺で切り取って温泉に入ったりしていたところ細菌

感染を起して壊疽となり、ついに左下肢を切断せざるを得なくなったのです。

また、ある患者さんは糖尿病で血糖が高いのを知りながら4年間無治療

で放置し、自転車に乗っていたところ突然網膜症による眼底出血を来し、

片方の眼はほとんど失明してしまいました。幸いインスリン療法による高

血糖の改善と眼的光凝固療法により、

新聞の大きな字は何とか読める程度にまで回復しましたが、その後糖尿病による腎不全を発症し、現在透析療法を週に3回受けています。

このような患者さんに共通する点は、そこまで病状が悪化して初めて早期治療の大切さを痛感し反省していることです。結局私達はいよいよ追いつめられたり、厳しい状況を体験しないと分からないことが多くあるということでしょう。

しかし、人間は知恵により他人の体験を自分のものとする能力を持っています。糖尿病の治療についてはこの知恵の習得が必須と思われます。それには糖尿病教室などを利用し、知恵を得ると共に定期的に血糖値や合併症の有無などの検査を受け、経過を観察していく必要があります。自己流の治療や健康食品、健康飲料などの宣伝に惑わされないよう注意が肝心です。

糖尿病の治療に近道はありません。正しい食事療法を基本とし、出来るだけよく歩き、血圧を正常化し、必要な糖尿病の薬物療法を守れば慢性合併症のない健康な生活を送ることも可能なのです。

(豊田)

## 職員研修

## 「当院のNST活動と褥瘡対策」

管理栄養士 阿部 美紀



11月13日(木)の定例研修会において「当院のNST活動と褥瘡対策」をテーマに末友先生と講

義を行いましたので、報告させていただきます。

NST (Nutrition Support Team: 栄養サポートチーム)とは、「栄養管理を症例個々や各疾患に応じて適切に実施することを Nutrition Support (栄養サポート)といい、この栄養サポートを医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師などの多職種で実践する集団(チーム)」を意味します。

当院では2007年の7月にNSTを設立し、現在総勢18名で活動を行っています。毎月、低栄養状態にある患者さんの食事内容や栄養剤の投与量の変更など、栄養状態の改善に向けた検討を行っています。



今回の研修会では、口から食べることができない患者さんに、直接胃や腸へ栄養剤を投与する栄養投与方法(経腸栄養法)で使用する栄養剤の特徴と、その際に合併しやすい下痢の対策について説明しました。

また、末友先生より褥瘡(床ずれ)の治癒の過程を鮮やかなスライドを使用し紹介してもらいました。この研修会当日にあわせて完治を目指していた患者さんがおられましたが、いずれもあと一歩というところで完治したスライドをお見せすることが出来ませんでした。台本通りには進まない様子が、かえってスタッフの褥瘡対策への奮闘振りを伝えられたのではないかと思います。

これを機になるべく多くの職員が栄養管理について関心を持ち、病院全体でNST活動を行えるようになれば、より早く患者さんの栄養状態の改善が図れるのではないかと期待しています。

## 糖尿病教室 特別講演会 「簡単、楽しい運動と食事」

管理栄養士 甲斐 めぐみ

昨年9月27日(土)当院の多目的ホールで患者さんを対象に、糖尿病教室特別講演会がありました。今回は「簡単、楽しい運動と食事」というテーマで食事療法、フットケア、運動療法、検査値の見方、薬物療法の復習をする目的で開催されました。

まず看護師によるフットケアの復習は、五本指ソックスに爪をつけて正しい爪切りを実演するというユニークな方法で行われました。

運動療法、薬物療法、検査値の説明では、普段の講義で話しているポイントをスライドを使って説明し、〇×クイズを行いました。クイズでは自信なげに答える方が多かったようです。

食事療法の説明では、偏りなく食品を選択することの難しさ、逆にコツさえつかめばうまくいくことを知ってもらう目的でバイキング形式をとり、実際に食事を選んでいただきました。主食、主菜、副菜を意識して選び、バラ



ンスを維持ながら700kcalに納めるという内容でしたが、「パーフェクトでしょ?」と自信を持って言われる方もいれば、「私を選んだのは全部で何kcalぐらい?」と不安そうにたずねる方もいたので、食事療法の説明が皆さんにとって分かり易いものではなかったのではと感じました。

最後に当院のMSWの紹介をし、気になることがあれば気軽にご相談くださいと呼びかけをして講演会を終了しました。

今回の講演会は全体として多彩な内容となり、講演会終了後も参加者同士で情報交換をする場面が見られるなど皆さんに喜んでいただけたようでした。





永年勤続表彰者

昨年12月4日(木)に創立28周年の記念式典が多目的ホールで行われました。

まず始めに豊田理事長からの挨拶があり、引き続き当院の28年間の足跡をスライドでふり返りました。この後、今年度の永年勤続者35名の表彰が行われました。

永年勤続表彰者は以下の通りです。(敬称略)

■25年勤続(2名)

東 美幸、外池美津子(看護部)

■20年勤続(2名)

中島三枝(臨床検査科)、森永富美(看護部)

■15年勤続(4名)

岩崎信子(臨床検査科)、池永多美子、武野真理子(看護部)、田中民子(栄養科)

■10年勤続(15名)

宮川ミカ、木下 恵、金田美紀、西田匡世、田邊かおり、深田理絵、竹下郁美、小野千香子、生野弘子(看護部)、古谷悟千(リハビリテーション科)、大塚千寿(医事課)、秦 由紀乃(竹田クリニック看護部)、井田久美子、堀 時子、山口清美(竹田クリニック栄養科)



■5年勤続(12名)

織部尚利(診療部)、川野美紀、河野美佳、甲斐野美賀子、遠藤由香里(看護部)、前田哲志(リハビリテーション科)、上條仁美(医療福祉地域連携部)、永沼 舞(放射線科)、吉田由香理、安東浩子(医事課)、河野美鈴(竹田クリニック看護部)、粟生千寿子(竹田クリニック栄養科)

表彰の後、臨床検査科の中島三枝科長補佐が受賞者を代表して謝辞を述べました。

最後に、昨年6月14日以降に入社した住江昭啓先生、古場郁乃、池永梨菜、安井早苗、小原久美子、荒井梨紗、金森博美、高橋奈美江、七郎丸初美の9名の皆さんから自己紹介の一言スピーチがありました。

記念式典終了後は、病院玄関前で恒例の職員全員の記念撮影が行なわれました。



# リレー・フォー・ライフ (命のリレー) in 大分



リレー・フォー・ライフとは、がん征圧を目指した取り組みとして20年ほど前にアメリカで始まったイベントです。日本では2年前に始まり、昨年は大分を含めて6都市で行われ、今回大分では初めての開催となりました。「がんになっても希望をもって明るく生きていける社会」をモットーに、がんの患者さんやそのご家族、医療関係者、支援者らがチームを組み、それぞれのチームが交代でタスキをつなぎ、グラウンドを24時間にわたって歩き続けるというイベントです。

10月11日(土)13時から12日(日)の13時まで、会場となった大分大学医学部グラウンドでは、それぞれ特別



な想いを持った方たちが参加してタスキやチームフラッグを受け継いで歩き続けました。夜が更けるとトラックの周りのルミナリエ(キャンドルライト・セレモニー)に明かりが灯され、その周りを歩くのはなんともいえない感動があり、幻想的な雰囲気を感じました。終りに近づくにつれ眠気と疲労は極限状態でしたが、気分が明るく楽しくなるような催しものや周りで声援してくれる方々の励ましもあって、なんとか無事に24時間完走することが出来ました。



この2日間は、いろんな人に出会えて元気をいただきました。あらためて「生きる」ことについて考えさせられ感謝と感動の2日間でした。ありがとうございました。





今年度の職員旅行は、10月18～19日と25～26日の二班に分かれて熊本へ一泊二日の温泉旅行を満喫しました。

初日は、病院を昼過ぎに出発して夕方の4時半頃には宿泊予定の栃木(とちのき)温泉小山旅館に到着しました。夕食まで時間があつたのでゆっくりと温泉に浸かり日頃の疲れをとることができました。また、部屋からは大きな滝や雄大な景色が一望できました。

夜になり恒例の宴会がスタート。目の前に並べられた数々の美味しい料理を味わいながら、カラオケや談話など、心ゆくまで大いに盛り上がりました。

2日目は朝食をとったあと、阿蘇ファームランドへ出発。多種多様なお土産品があり、時折味見をするなどして楽しみながらショッピングができました。その後、南阿蘇村の白川水源へ向かい、水源をじっくりと観賞しました。水が湧き出ているところは色が淡い青色で、透きとおるその透明感がなんともいえず、底に生えた綺麗な水草とともに幻想的な雰囲気を漂わせていました。水源の水は飲むことができるため、容器に入れて持ち帰る人もいました。

昼食は、高森・田楽保存会で南阿蘇地方に古くから伝わる郷土料理を満喫しました。みんなで囲炉裏をかこみ、芋やこんにゃく、魚などを串に刺し味噌ダレをつけて焼いて



とちのき

## くまもと栃木温泉と名水紀行

食べました。濃厚な味噌が食材によく合い大変美味しかったです。その他にも、とうきびご飯や山菜だご汁などが出てきて、お腹いっぱいいただきました。その後、休憩をはさみながら病院への帰路につきました。

今回の旅行では、ゆったり温泉に浸かり自然をたっぷりと感じることができました。また、職員同士の交流を深めることもできたので大満足の旅行となりました。



## 新任医師紹介

昨年の10月1日より住江昭啓先生が腎臓内科の専門医として当院に着任されました。今後、幅広い分野で活躍されることを期待しています。

すみえ あきひろ  
～住江 昭啓先生に

INTERVIEW～



■大分記念病院の第一印象は？  
ゆったりした印象。

■今後の抱負をお聞かせください。  
パソコンの操作に慣れ、業務を早く覚える。

■自己PRをお願いします。  
透析及び救急をやってきました。  
大分記念病院でもお役に立てるよう努力します。

# 大分へもフィリア友の会 クリスマス会



大分へもフィリア友の会のクリスマス会が12月21日(日)に多目的ホールで行われました。参加者は友の会のメンバー18名と病院スタッフ7名の総勢25名でした。

皆で1年間の振り返りをしました。会員の中にはエピソードのあった方もおられましたが、無事にクリスマス会を迎えることが出来、皆で喜びました。無事に過ごせたのも日頃の学習の積み重ねの成果でしょう。

お話しの後には、子供達がお待ちかねのゲーム大会。4チー

ムに分かれ、どれも趣向を凝らした内容でした。中でも特に面白かったゲームは、おでこに煎餅をのせて顔の動きだけで口まで持って行って食べるというゲームで、皆お腹を抱えて笑い、会場は大賑わいでした。

そして最後に全員で記念写真を撮りました。

今年も友の会の方々や子供さん達と一緒に楽しいクリスマス会を過ごせたことを嬉しく思います。

## 作りま専科

### 豚肉の があ汁



#### 材料(4人分)

豚肉	100g
油揚げ	1枚
大根	100g
人参	1/2本
こんにゃく	1/3丁
青ねぎ	1把
酒粕	100g
だし汁	4カップ(800cc)
白味噌	60g
酒	大さじ1

#### 【作り方】

- ①豚肉、大根、人参は短冊切り、青ねぎは斜め輪切り、油揚げは油抜きをして短冊切り、こんにゃくは茹でて短冊切りにしておく。
- ②酒粕は酒とだし汁に漬けて、やわらかくなればすり鉢に取り、よくすり潰して白味噌を加え、なめらかにのぼす。
- ③鍋に②の酒粕とだし汁を入れ、煮立てば青ねぎ以外の材料を加えて煮込み、味を整える。最後に青ねぎを加えて出来上がり。

#### 【ひとくちメモ】

酒粕には様々な栄養成分が含まれており、高血圧の予防、やけどの薬、肌の保湿効果などがあるとされます。

体を外から温めて風邪を予防する酒粕風呂もお勧めです。酒粕約300gをガーゼやハンカチに包み、輪ゴムで口をしぼり浴槽に入れます。新陳代謝の促進によって肌の保湿効果が上がり、また暖かさも持続します。



12月13日(土) 19時30分より大分東洋ホテルで2008年度大分記念病院忘年会が開催されました。定刻になると会場は華やかに着飾った職員で溢れました。



まずは豊田先生の挨拶と、10月に着任された住江先生の緊張混じりの自己紹介につづき、末友先生による乾杯の音頭で楽しい宴会へと流れていきました。しばらく皆で美味しいお料理とお酒、そしてお喋りを楽しんだ後は、いよいよ待ちに待った余興の始まりです。

最初は施設管理の伊井さんによる演歌独唱。「旅がらす」を皆、手拍子で一緒に楽しみました。次は1階新人スタッフによる鼠先輩の「六本木～GIROPPON～」。怪しげなネズミの着ぐるみでダンスを披露してくれました。そして、竹田クリニックのスタッフによる「よさこいソーラン節」は、相変わらず息の合った踊りと後半のコミカルなコスチュームが素敵でした。また、新人看護師と検査科スタッフのダンス「羞恥心」では、職場での失敗談も交え会場は笑いに包まれました。透析スタッフによる可愛いダンス

Perfumeの「ポリリズム」は、アンコールで先生達も舞台上に上がって大いに盛り上がりを見せました。ラストに飛び入り参加した2階看護師は、ホイットニー・ヒューストンの名曲を熱唱し素晴らしい歌唱力で会場を魅了していました。



そして恒例のビンゴゲーム。商品券を巡る熱い戦いが繰り広げられました。

最後に高田先生の閉会の言葉、二ノ宮先生の万歳三唱で今年度の忘年会も終わりを迎えました。

昨年は社会的にも色々な意味で変化のあった年。当院でもリレー・フォー・ライフへの参加など新たなことに挑んだ年でした。今後も世の中の動きを的確に捉え、社会に求められる医療を目指して変化し続けて行こうと決意を新たにしました。

皆さん、1年間本当にお疲れ様でした。



## 新入職員の紹介

昨年の10月～12月に入社した新入職員をご紹介します。それぞれの部署で明るく元気に活躍中です。今年もよろしくお願いいたします。

池永 梨菜  
(看護部)



早く患者さんの名前を覚えて、笑顔で大切に仕事に取り組んでいきたいです。

七郎丸 初美  
(看護部)



やさしい笑顔で仕事ができるよう頑張りたいと思います。

安井 早苗  
(看護部)



初めて医療に携わります。不安もありますが、まずは仕事を早く覚えて皆様の手助けができるよう頑張ります。

高橋 奈美江  
(栄養科)



早く仕事を覚えて指示通りの治療食を作れるよう一生懸命頑張りたいと思います。

## 編集後記

明けましておめでとうございます。昨年開催されたリレー・フォー・ライフ大分に参加しました。24時間完走できた時、水泳の北島選手ではないですが『何も言えね～』と言いたいほどの達成感と満足感を味わえました。今年は皆さんも参加して一緒に感動を味わってみませんか？

今年も大分記念病院広報委員会の活動へのご支援をよろしくお願いいたします。(堀田)



『9月の風』江藤 正純 様  
(大分県美術協会会員、九州国画会同人)



『シルエット』中村 出 様  
(大分県美術協会会員、九州国画会同人)

## アートのボランティア

アートのボランティアの方々のご協力により、病院内に絵画や写真作品を常時展示しています。皆様、ご来院の際はどうぞ鑑賞ください。

大分記念病院ホームページはこちらから

大分記念病院

検索

簡単になりました